

私達は二十一世紀を生きている。世紀末に生まれ落ちて、気がついていたら跨いでいた、そんな感慨である。その調子で前を向いて歩くことができた、わりかし足取りも軽いのかもしれないが、どうもそうはいかないような気がしてならない。

二十世紀という時代を生きた人々から発せられた「問い」や、言葉にもならなかった「沈黙」に対して、私達はその存在自体に無関心で生きられてしまう現実がある。そうした現実感覚を時代の精神として受け入れることは容易いが、一方でカウンター・バランスとしての何かを持ちたいという危機感にも似た衝動が身体の奥底からおこっている。それが何なのかを確かめるために古典に言葉求めたら、チェーホフに行き着いたのである。

しかも、四大戯曲の中でも一番社会性の薄い、ある種私小説的な戯曲である『かもめ』に。チェーホフの言葉の中でも、最も細く危うい感覚が、この戯曲の中にあると感じた。それが百年という時間の流れの中でどうなったのかを記述することで、私が確かめたかったものを相対化できると考えた。その時、浮かび上がってくる様々な事柄こそ、私達が見失ってしまっているものを気づかせてくれる契機となるのではないだろうか。

人間が人間を思考していく「場」の始まりに『かもめ』を選んだことに、迷いはない。

鹿島 将介

《アントン・ロ・チェーホフ》

一八六〇年、南ロシア・タガンログ出身の小説家、劇作家、医師。父パヴェル・エゴロヴィチは商人、祖父は元農奴だった。破産した家族の生活を支えるためにユーモア短篇を書き飛ばし、ロシアに雑誌が普及し始めた一八八〇年代の時流に乗り文名を得る。人の幸福とは何かについて想いを巡らせ、対峙する姿勢をもつ作家であった。晩年に執筆された四大戯曲は、伝統的な戯曲の形式とは対照を為す。モスクワ芸術座の成功はチェーホフによるものと言っても過言ではなく、劇場のシンボルマークにもカモメが採用されている。一九〇四年七月二日、四十四歳で死ぬ。代表作『かわいい女』『犬を連れた奥さん』『かもめ』『ワニヤおじさん』『三人姉妹』『桜の園』

《重力／Noteとは？》

二〇〇七年、演出の鹿島将介が大学卒業を期に開始した表現活動の総称。人間を取り巻く様々な力の運動を記述した「場」を提供することで、観客と一緒に人間という存在の根源を思考していくことを目的としている。また社会の中で喪われた価値観や感覚に対し、哀悼行為としての表現を模索中。今後、表現集団としての組織化も予定している。

重力／Note公演

かもめ

2008年2月28日(木)～3月2日(日)

シアター・バビロンの流れのほとりにて

原作：A・チェーホフ 構成／演出：鹿島 将介

出演：磯矢拓麻（劇団芋屋）／海雲真由美／喜瀬太一郎／高倉成司／滝腰教寛／

豊田可奈子／宮嶋みほい／吉植荘一郎／

美術：青木祐輔 照明：南香織（CHIDA OFFICE）音響：佐藤尚子／中新田風子

作曲：片倉惇 衣裳：井上彩 舞台監督：宮島雄一郎 フライヤーデザイン：齋藤浩基

制作：村松美穂 主催：重力／Note

《日時》

2月28日(木)19時☆

2月29日(金)19時☆

3月1日(土)14時/19時☆

3月2日(日)13時/17時☆

☆:公演終了後に、ささやかな軽食を御用意しております。公演を通じて来場された皆様と交流がもてたら幸いです。

《チケット予約》

2008年1月1日より予約受付開始

全席自由

前売／当日

一般: 2500円

学生: 2000円 ※要・学生証提示

《御予約・お問い合わせ》

E-mail: info@jyuuryoku-note.com

TEL: 090-5524-8189 (制作)

※メールでのチケット予約は、件名を「チケット予約」としていただき、本文に「ご氏名(カナ)／希望日時／枚数／一般or学生／御連絡先」を明記して下さい。こちらからの返信をもって予約完了となります。

《アクセス》

シアター・バビロンの流れのほとりにて

TEL: 03-3927-5482

東京都北区豊島7-26-19

・都営地下鉄南北線「王子神谷駅」3番出口より徒歩12分

・都営バス「豊島七丁目」

下車徒歩3分：JR「王子駅」

1、2番乗り場より全便（約

5分）



重力／Note

info@jyuuryoku-note.com

<http://www.jyuuryoku-note.com>

〒103-0004

東京都中央区東日本橋2-17-2